

# 第 27 期 事 業 報 告

(自平成31年4月1日 至令和2年3月31日)

## 1 株式会社の現況に関する事項

### 1-1 事業の経過及び成果

#### (1)令和2年1月末までの状況

令和2年度までを期間とする京都市との勸業館指定管理者協定の3年目となる今期は、公募選定時に提案した事業計画及び経営計画を誠実に遂行するとともに、次期選定へ向けての飛躍の年とするべく業務に取り組んでまいりました。

その一つがミュージアムショップ事業です。京都市勸業館に併設されている常設展示場「京都伝統産業ふれあい館」のリニューアルが京都市において実施されました。このことに併せ、当社が同館との連携事業として運営している店舗「ミュージアムショップ京紫苑」についても、より一体感を重視するとともにその存在意義を一層発揮させる観点から当社において総額 27,000 千円を投じ、リニューアルを行う積極的な経営に取り組んでまいりました。

当社の主要事業である京都市勸業館事業につきましても、固定顧客の継続したご利用や国際会議も含めた学術会議のご利用が堅調であり、また、上半期には夏休み中の子ども達をターゲットにした大型イベントが新規開催されるなど、年間の稼働率は昨年度を3ポイント程度上回る 56%弱を想定していました。

また、安心、快適な施設として京都市勸業館をご利用いただく方々の信頼に応えるため、これまでから施設の修繕、備品の充実に取り組んでおり、今期は、地下1階のトイレを温水洗浄機能付き便座に改修いたしました。

#### (2)新型コロナウイルス感染症の影響

しかしながら、令和2年1月に新型コロナウイルス感染症の国内での感染が報告されて以降、京都市勸業館においてもその影響を大きく受けることとなりました。

京都市勸業館事業は、2月下旬から新型コロナウイルス感染症の影響を受け始め、開催が取り止めとなる催しが相次ぎ、3月の面積稼働率は 10%程度(昨年同月比8割減)まで落ち込みました。結果的に1月までの好成績に支えられ、年間の稼働率は50%を維持できたものの 50.71%まで落ち込みました。駐車場利用も3月は昨年度に比べ 26.3%の利用率に止まりました。

京都伝統産業ふれあい館ミュージアムショップ事業につきましては、上半期は免税売上も含め健闘いたしましたが、京都伝統産業ふれあい館がリニューアルのため10月から3月中旬まで一時閉館したことに伴い仮店舗での営業となったことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止によるインバウンドの激減と外出自粛要請を踏まえ、3月14日のリニューアルオープン後の半月も目標の 45%弱の売上に止まりました。

自主企画事業については、6月の経済文化講演会と6回目となり夏の恒例イベントとなった「電車王国inみやこめっせ」は成功裏に終えることができましたが、3月の伝統産業の日の協賛事業「京ものフェスティバル」はやむなく開催を中止いたしました。

※ふれあい館の改修に合わせて光庭及びみやこめっせ前広場の工事が行われたことから、秋の「かがやきめっせ」及び冬の「ウインターイルミネーション」事業も中止しています。

### (3)損益の状況

このような状況のなかではありますが、会社全体の売上高は、昨年度から 2,143 千円減の 696,407 千円となり、営業利益につきましても、昨年度から 3,942 千円減となったものの 13,127 千円の黒字となりました。

その大きな要素は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため利用を取り止められた催事については、キャンセル料相当分を京都市に補償いただけたことに加え、2年度に利用予定の催事であっても元年度中に利用取り止めのお申し出があった分についてはそのキャンセル料が今期の収入になることによるものであり、駐車場利用料を含む施設利用料収入として昨年度から 22,229 千円増の 637,566 千円を計上することとなりました。なお、ミュージアムショップの商品売上高は 26,859 千円となり、昨年度から 18,065 千円減少いたしました。

また、前述のとおりミュージアムショップの改修に取り組むにあたり、ハード面のみならず、ソフト面においても専門家のアドバイスを受けるなど整備に注力したため経費を要したことから、販売費及び一般管理費は昨年度から 11,609 千円増加しております。

以上のように、今期は、昨年度と比較して売上高は減少したものの売上原価も減少したため、売上総利益は増加いたしました。しかし、販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益及び経常利益は減少いたしました。また、新型コロナウイルス感染症による特別措置として、特別利益にキャンセル料還付に対する市からの補償金を、特別損失にキャンセル料の還付金を計上いたしました。これらの結果、税引前当期純利益は、賞与引当金を一括繰入計上した昨年度を 1,035 千円上回る 22,086 千円を確保いたしました。

### 1-2 直前三事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第24期	第25期	第26期	第27期 (当事業年度)
売上高	937,683 千円	903,598 千円	698,550 千円	696,407 千円
当期純利益	34,363 千円	19,456 千円	11,465 千円	14,045 千円
一株当たり当期純利益	19,090 円 70 銭	10,808 円 89 銭	6,369 円 51 銭	7,802 円 90 銭
純資産	498,580 千円	516,236 千円	527,701 千円	541,746 千円

(注) 京都館の閉館に伴い、第25期をもって京都館事業を終了

### 1-3 当該事業年度における主要な事業内容

当社が現在行っている事業の主なものは、次のとおりです。

#### (1)京都市勸業館事業

展示場及びその付随施設、会議室、ギャラリーの貸出、展示会の企画運営サービス、  
駐車場管理

#### (2)ミュージアムショップ事業(京紫苑((京都伝統産業ミュージアムショップ))の運営)

伝統工芸品等の販売

#### (3)自主企画事業

みやこめっせ経済文化講演会、電車王国 in みやこめっせ等の実施

### 1-4 当該事業年度の末日における主要な営業所及び使用人の状況

#### (1)主要な営業所

本店 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

#### (2)使用人の状況

従業員数 (うち、臨時社員数)	前事業年度末比増減
22人 (6人)	1人増

(注)従業員数には、臨時社員を含んでいます。

## 2 株式に関する事項

### 2-1 株式数

(1)発行可能株式総数	4,000 株
(2)発行済株式の総数	1,800 株
(3)当事業年度末の株主数	9 名

### 2-2 株主及びその持株数

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
京都市	1,080	60.0
京都府	100	5.6
京都商工会議所	100	5.6
公益財団法人京都伝統産業交流センター	100	5.6
公益社団法人日本図案家協会	100	5.6

株 主 名	持 株 数 (株)	持株比率 (%)
株式会社三菱 UFJ 銀行	90	5.0
株式会社京都銀行	90	5.0
京都信用金庫	80	4.4
京都中央信用金庫	60	3.3
合 計	1,800	100.0